

## 今年の繁殖状況

シマフクロウ保護・研究家 山本純郎

異常気象の続く中、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

1985年から継続している標識調査、シマフクロウの雛を捕獲、標識、健康チェック（採血）は今年も無事終えることができました。

皆さんはすでに新聞報道等でご存じのことだと思いますが、雛数も順調に増え、総数で40羽を超えることができました。これは標識されていない雛はカウントされておらず、すべての巣立ち雛を含むと数はさらに増えます。加えて毎年繁殖成功の常連つがいが、相次いで失敗しており（主に根釧地域）、もしこれらが成功していれば50羽は軽く超えていたと思います。しかし自然界はうまく出来ていると思います。いくら広い北海道でも棲める環境はそんなに多くありません。その為、一度に産出するより徐々に増えていく方が生存率や近親交配等を避ける意味ではいいのです。これは神のなせる業。そう思い棲めるエリアを増やそうと官民協力して進めています。

高温の日々の昨今、多くの昆虫やハエ類の一部は卵の時期の温度（気温）の高低により性別に変化が生じています。鳥類ではまだそのようなことは確認されていません。ただ、シマフクロウでは雌が

多い年と逆に雄が多い年がありますが、その原因は不明です。究明にはまだまだ時間がかかりそうです。

今、我々に出来ることはたかが知れています。

「個々の命を大切にしていれば必ず報われる」私はそう信じて活動しています。

巣立ち前の幼鳥  
あと数日で巣立ちします



巣立ち後 2日の幼鳥



巣立ち後 1週間の幼鳥



標識後 威嚇する幼鳥



## ●早矢仕 有子氏が著書を出版

令和4年3月に、早矢仕 有子氏（北海学園大学工学部教授）の著書「シマフクロウ 家族の物語（しまふくろう新書）」が北海学園大学出版会から刊行されました。本書は数少ないシマフクロウ研究者である早矢仕氏が32年間にわたって、神秘的なシマフクロウの生活を観察してきた貴重な記録ですので、是非ご一読ください。

\*一般書店、ネットショップで販売されています（定価1,100円）。

## ●賛助会員・寄付を募集しています

当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆様の賛助会員ご入会とご寄付を募集しています。

当会のホームページから手続きができるようになっておりますので、ぜひご覧ください。

【認定NPO法人北海道シマフクロウの会 事務局】（担当：米谷・久保木）

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階（株）北海道二十一世紀総合研究所内 TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683

URL : <https://hokkaido-shimafukurou.org/> E-mail : [info@hokkaido-shimafukurou.org](mailto:info@hokkaido-shimafukurou.org)

# 北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌



第32号



## 令和4年度通常総会開催

認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 事務局

令和4年6月16日に認定NPO法人北海道シマフクロウの会の令和4年度通常総会が開催されました。本総会では、令和3年度事業報告・決算及び令和4年度事業計画・予算、役員の選任、顧問の設置、業務委託費の増額等についてご審議いただき、いずれも異議なく可決されました。議案内容の要旨は次のとおりです（当会のホームページにも掲載されています）。

### 令和3年度事業報告・決算

- 通常総会のみなし（書面）開催（令和3年6月14日）
- 第1回理事会（令和3年6月9日）、第2回理事会（令和3年12月15日）開催
- クラウドファンディングの実施（令和3年8月16日～10月15日）
- 機関誌「北海道シマフクロウ通信」の発行（令和3年5月、9月、令和4年1月）
- 第3回シマフクロウ保護活動支援金贈呈（令和4年2月）シマフクロウの保護活動に直接携わっておられる6名の方々およびシマフクロウ生息地の環境保全や生息地の拡大・確保に尽力されている1団体への支援金贈呈

### 令和3年度決算

● 経常収益	：3,554千円（正会員・賛助会員会費・寄付金ほか）
● 経常費用	：3,009千円
事業費	：2,371千円（保護活動支援金・機関誌発行費など）
管理費	：637千円（事務局事務委託費・会計管理費など）
● 期末正味財産	：4,403千円（次期繰越正味財産額）

### 令和4年度事業計画・予算

- シマフクロウの生態や保護に関する講演会等の開催
- 機関誌発行（年3回発行予定、会員のほか各公共施設等へ配布）
- WEBサイトでの発信（ホームページ等での活動広報、情報発信）
- シマフクロウの保護等に携わる方々・団体への支援金贈呈
- シマフクロウ保護に関する啓発を兼ねた支援金原資募集のためのクラウドファンディングの実施
- シマフクロウ保護活動に関する講演による広報の実施

### 令和4年度活動予算

● 経常収益	：3,260千円（正会員・賛助会員会費・寄付金ほか）
● 経常費用	：3,960千円（上記事業計画関連予算）
事業費	：3,093千円（保護活動支援金・機関誌発行費など）
管理費	：867千円（事務局事務委託費・会計管理費など）
● 期末正味財産	：3,703千円（次期繰越正味財産額）

### 新体制のお知らせ

理事長	村田正敏	副理事長	荒川裕生	副理事長	中村榮作
理事	石水 創	理事	柴田 龍	理事・顧問	横山 清
理事	近江秀彦	理事	深津優子	監事	祖母井里重子
理事	小林三樹	理事・顧問	横内龍三	監事	中井 千尋

## 理事長退任挨拶

認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 理事・顧問 横内 龍三



令和4年6月16日に開催されました令和4年度通常総会及び第1回理事会におきまして、私は、北海道シマフクロウの会の理事長職を、これまで副理事長をお務めいただいている村田正敏様に引き継いでいただくことになりました。

また副理事長は、村田、横山両氏が退任し、新たに荒川裕生理事と中村榮作理事にご就任いただくことになりました。

今般の理事長退任は、昨年末、私が個人的事情により、横浜に転居したことから、距離的にも時間的にも理事長職を全うすることが難しくなったことが直接の理由ですが、もう一つ、当会も時の経過に伴い、世代交代すなわち若返りを図る必要があることもその背景と考えております。

当会は、2013年（平成25年）9月に任意団体として設立され、途中2019年（平成31年）2月のNPO法人化を経て、明年2023年（令和5年）には10周年を迎えます。また、当会の「機関誌」である「北海道シマフクロウ通信」は、本号の発行をもって32号を数えることとなりました。

この間、最近の当会の活動状況を見ますと、いわゆるコロナ禍のもと、講演会などの自粛等通常の活動が大きく制約さ

当会では、本年もシマフクロウの保護活動に取り組んでいらっしゃる皆様への支援を継続的・安定的に行っていくとともに、保護活動に対する啓発を図るため、9月5日（月）から10月25日（火）の期間で、北海道新聞社様のご協力の下に、クラウドファンディング方式によるご寄

れる中、会員の数も若干減少を辿るなど、今後の活動の在り方について何かと課題が意識されるようになって参りました。当会といたしましては、このような環境変化に対応して、その活動をいわば新しい目で見直していく必要に迫られております。組織の若返りは、そのためにぜひ必要な対応の一つと申せましょう。

皆様、世界は今、ロシアのウクライナ侵攻、中国の南シナ海におけるプレゼンス拡大、北朝鮮によるミサイル発射と核再開発の可能性など、新たな脅威に晒されております。しかし、このような情勢の下で忘れてはならないのは、地球温暖化をはじめとする気候変動が着実に進行していることです。

私は、絶滅危惧種であるシマフクロウの保全は、それ自体はささやかな活動に見えるかもしれませんのが、生物多様性の保全、ひいては地球環境の保全へと着実に繋がっていくものと確信しております。この意味で、当会が着実にその歩みを続けていくことは、北海道にとって、また日本にとって大きな意義を有するといえましょう。新体制の下での当会のさらなる発展を心からお祈り申し上げる次第です。

最後に、理事長職退任にあたり、これまで当会の活動に理解を示され、力強いご支援を賜りました全ての皆様に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

皆様、本当にありがとうございました。

付の募集を行っています。つきましては、本趣旨にご賛同いただけます皆様におかれましては、クラウドファンディングへのご寄付のご協力、また知人の方々へのPRにも是非お力添えを賜りますようお願い申し上げます。なおインターネットを通じた応募とな

## 理事長新任挨拶

## 「森の神」支援の輪を広げよう

認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 理事長 村田 正敏



シマフクロウに対する想いは日ごとに高まっています。北海道の「森の神」とでも呼ぶべきこの鳥を守るため、人生をかけて取り組んでおられる方々への敬意もまた、深まるばかりです。

6月に開かれた「北海道シマフクロウの会」の総会・理事会で理事長に選出してくださいました。

9年間にわたって初代理事長を務められた横内龍三さんは「生物多様性の保全」とシマフクロウに関する情報の収集・発信およびその保護に携わっている方々の支援（当通信創刊号）と会の狙いを示されており、この目的に向けて突き進みたいと思っています。

シマフクロウは国の天然記念物です。しかし、今は野生で165羽程度しか確認されておらず、環境省のレッドリストで「絶滅危惧IA類」に指定されています。明治時代には全道に数多く生息していたようですが、住みかとなる大木が切り倒されるなど開発の影響で激減し、姿を消す寸前にまで来ています。

この絶滅を防いでいるのは、シマフ

クロウに恋した民間の方々の献身的な努力です。

京都府出身の山本純郎さんは公務員生活を辞めて1982年に根室市に移り住み、40年間にわたって保護・増殖一筋に活動を続けられています。山本さんは著書で「シマフクロウは多くの人を魅了してやまない」と記されています。

同じ志と情熱を持った研究者がそれぞれ保護・増殖に取り組みながらネットワークを作り、環境省北海道地方環境事務所や林野庁北海道森林管理局、釧路市、札幌・円山、旭川・旭山各動物園、日本野鳥の会などとの連携を広げています。

「会」はこうした活動を下支えしてきました。2年以上に及ぶコロナ禍で講演会や学校訪問などは開催できませんでしたが、会報の発行、保護活動支援金の贈呈などを通じて励ましてきました。

シマフクロウの保護・増殖活動は単にひとつの絶滅危惧種を守る、というだけにとどまらず、北海道の豊かな自然を大事にし、地球環境を守ることにつながります。

そうした想いを大切にして「あなたの力でシマフクロウを守ろう」と多くの人々への呼びかけを強め、支援活動の輪をさらに広げていきたいと思っています。会員の皆様のご協力をお願いします。

## 第4回クラウドファンディング実施のお知らせ

認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 事務局

ウ通信等を通じ、皆様にも改めてご報告させていただきます。

### 第4回クラウドファンディング実施要項

- 目標額 700,000 円
- 募集期間 令和4年9月5日（月）～10月25日（火）
- 募集運営 find・H（北海道新聞社）